

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。



GEETプロジェクト例会

宇宙ベンチャー企業が講演

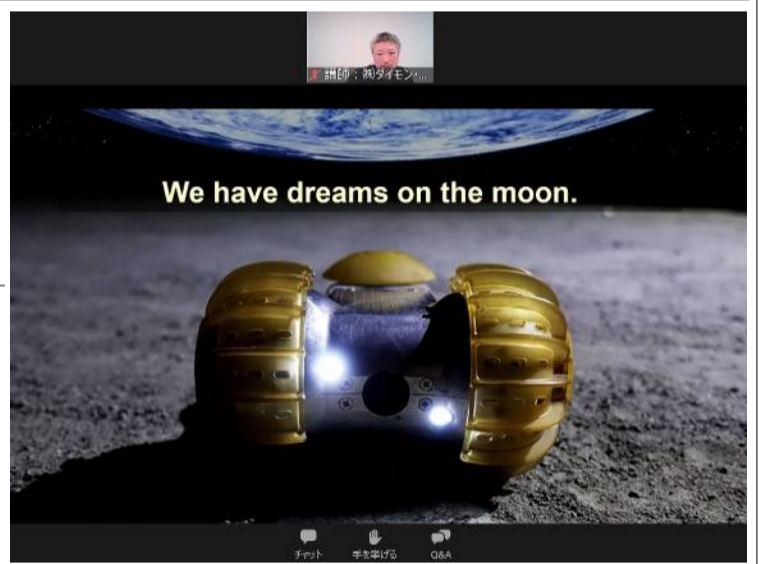
工業部会GEETプロジェクト(河野崇委員長は27日、経営セミナー「宇宙に挑むベンチャーに学ぶ」をオンライン(Zoom)開催した。今年度の同プロジェクトの講演会としては最多の約50人が参加し盛況だった。講演では、相模原からも近い川崎市内に拠点を構えるベンチャー企業、ダイモンの三宅創太COOが登壇。同社は特殊なロボットを開発し、民間企業として初となる月面探査を予定している。小さな企業がどうやって大プロジェクトに参画できたのか。三宅COOが話したII写真。

川崎のダイヤモンドが講演

同社はかわさき新産業創造センター(KBIC)に入居する企業で、超小型で超軽量、そして100kgの衝撃に耐えられる月面探査車(二輪走行ロボット)「YAOKI(ヤオキ)」を開発。その後、人類を再び月に運ぼうとする米航空宇宙局(NASA)の「アルテミス計画」において、2021年に先行実施される月面探査と物資輸送プロジェクトに、この探査車が採用されることになった。これにより、日本は米国、ロシア、中国に次いで4番目の月面探査国となる。

もともと、自動車エンジンニアとしてアウディの四輪駆動システム「クアトロ」の開発などを手掛けた中島紳一郎社長が、「これからは月面探査車の時代がやってくる」とにらみ、12年2月に東京都大田区で創業した。開発した月面探査車は、谷底に落ちても問題なく100kgの衝撃にも耐えられ、転んでも倒れずとも走り続ける。ヤオキは「七転び八起き」にちなんで命名した。従来の月面探査車は、四輪や六輪だったが、ヤオキは初の二輪方式を採用。手のひらサイズだ。今冬に実施されるNASAの月輸送ミッション「クリパス」で、ヤオキを米アストロロボティック社の着陸船に搭載。月面では水資源探査のほか、人間の居住区となり得るような洞窟探査といったミッションを遂行する予定。

今回の講演会では、三宅COOが同社の挑戦の軌跡について話した。また、今後の事業展開、参入ハードルが高い宇宙産業への挑戦を成し遂げた経緯なども説明した。途中のディスカッションの場面では、中小企業の成長産業への参入手段について、ヒントを探った。参加者からは「今まで全く接点を感じなかった月探査について、どのようなアプローチをしているのか知れた。われわれのような小さな企業でも、関わりを持つことができるという気付きも得られた」とや「自分たちにもできることがあるかもしれない」と、宇宙関連ビジネスの存在が少し身近に感じられたなどの声があり、好評を博していた。



SICと神奈川工科大 中小支援で締結

さがみはら産業創造センター(SIC)は神奈川工科大学(厚木市)、産学連携事業による中小企業支援で協定を締結した。

地域の中小企業の新分野進出を後押しするとともに、技術課題の解決や人材育成支援などを通じて、地域経済の活性化を図るのが狙い。また、実学教育により地域社会で活躍する学生を育成することも目的。

具体的には、中小企業からの技術相談や共同研究、受託研究などを実施するほか、大学の研究シーズなども紹介する。

一方、学生に対して企業情報や採用情報、インターンシップ情報なども提供していく。

まずは連携した取り組みとして、テーマを設定し、大学研究者とSIC入居企業とのピッチ交流会や、学生のインターンシップ受け入れ企業のアレンジ、学生と企業の交流会などを想定する。

工業副部長コラム

経営者と「実現力」

今回は「経営者と実現力」について考えていきます。実現力とは「強い意志」とは「確固たる強い意志」だと思えます。「やり遂げる」という勇気と湧き出る熱意です。新しい事



業・技術への挑戦は前人未踏です。暗黒模索、は傍観者です。試行錯誤の連続です。社構想したことを具体的に実行する中でまず必要

コロナ後見据え、勇気持ち「挑戦」を

なのは、一緒にやってもうたえらる人です。老若男女を問いません。老若男女が経験したことをお話しします。1980年代、コンピュータ制御の加工機械「CAM」が世間に出始めました。その時に導入を決め、一緒に動かすことに賛同しやってくれたのは、学校を出たばかりの営業と製造の社員でした。

受注したものを、従来の工程とは全く違う流れで製造する訳ですから、どんな製品ができるかは分かりません。コスト計算こそできますが、納期と品質が問題です。中小企業の体力では「保険」を打って、従来の工程と両方製造する力はありません。新しいことやるには勇気が必要だというのはここです。成功を信じ

て熱意がなければ取り組めません。全く新しい工程で出荷までやり遂げるという気迫が必要です。当時、私は27歳の経営者でした。営業社員も26歳、製造部員は18歳でした。その18歳の青年は、出荷に取り組んだ時、寝る間を惜しんで挑戦していました。私も心配で早朝に出社すると、真夏の朝陽を浴びながら車内で仮眠している青年製造部員の姿を見かけました。その時は、さすがにぐっとききました。それからも

(湘南デザインCEO / 公認心理師 / 松岡康彦)



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会